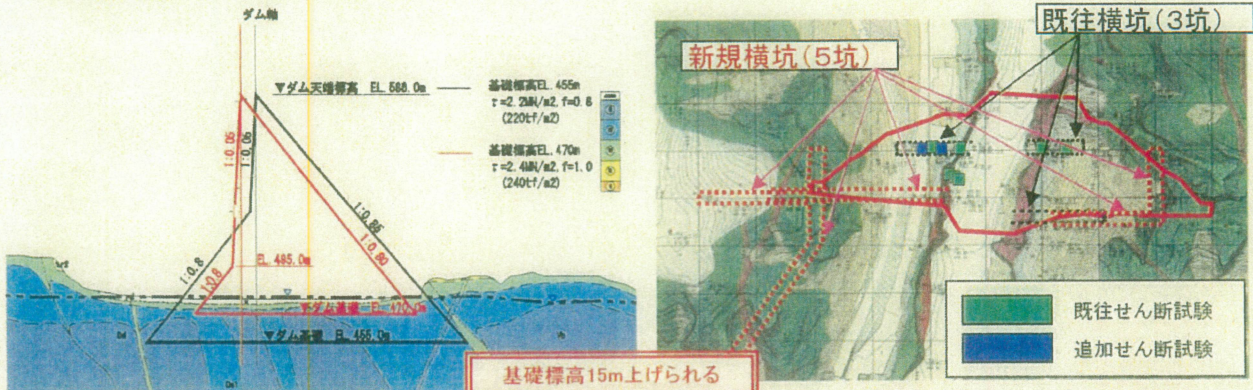


第8回 ハッ場ダム・湯西川ダムコスト縮減技術委員会

ハッ場ダムでの主な縮減効果

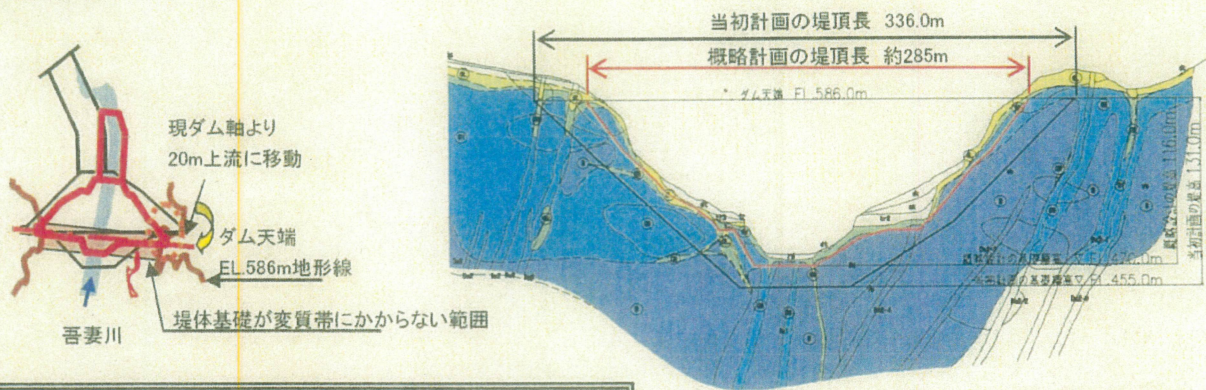
1. 基礎岩盤について



追加調査横坑によるせん断強度(CH級)の把握
2.2MN/m²→2.4MN/m²以上

さらにせん断試験結果を分析し、適切なせん断強度を検討をすすめる

2. 堤体配置について



ダム軸の確定によるダム堤体規模の低減
 ・堤頂長約51m短縮
 ・基礎掘削量約81万m³低減
 ・堤体積約69万m³低減
 合理的な減勢工配置計画により規模縮小の可能性

減勢工については、水理模型実験を行い検証を行う

3. 施工計画について

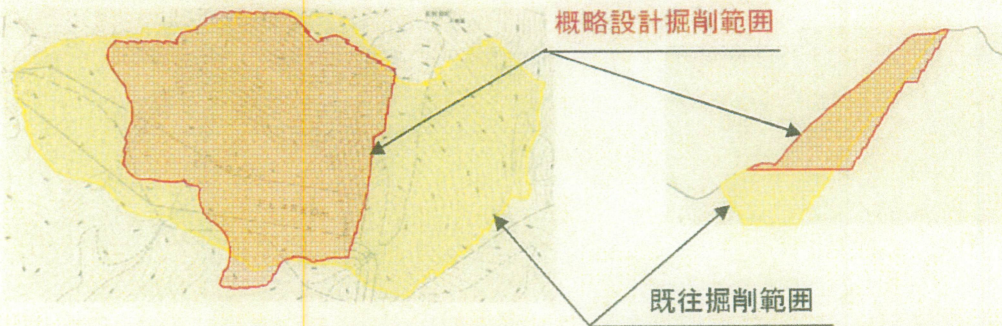
項目	標準値
①週休制	4週8休
②気温	最高気温 25℃以上を休止 最低気温 4℃以下を休止
③降雨 (RCD部)	時間雨量: 2mm 日雨量: 10mm以上

計画値
4週6休(降雨日は公休日に振替)
最高気温30℃以上を休止 最低気温 0℃以下を休止 [コンクリート標準示方書の打設温度 5℃を確保]
時間雨量: 2mm 日雨量: 10mm以上

基本条件の緩和により、打設の効率化、高速化が図られる

さらにRCD工法の高速施工化と施工設備の効率化を図り、最適な施工計画を策定する

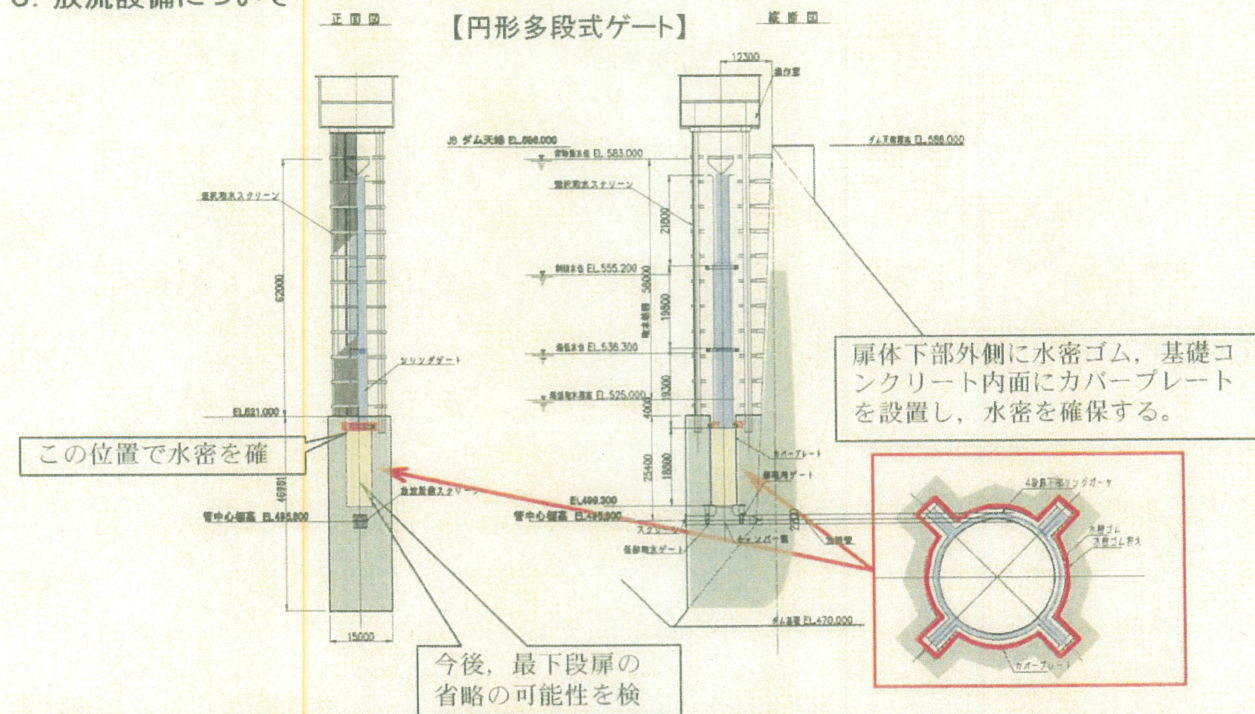
4. 原石山について



採取地の地質概要が把握でき、堤体形状の縮小に伴い掘削量約174万m³低減

堤体形状の決定をもって、効率的な採取計画を策定する

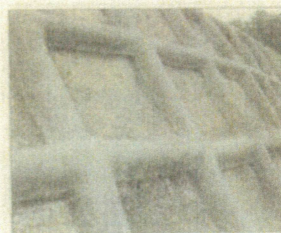
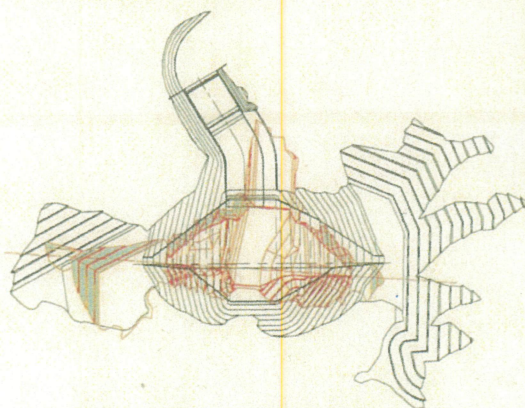
5. 放流設備について



構造の工夫により最下段扉省略(鋼材重量約70t低減)の可能性

さらに新技術、新工法導入の検討をすすめる

6. 本体法面について



【簡易吹付法枠(植生前)】



【簡易吹付法枠(植生後)】

堤体形状の縮小及び仮設備配置計画の検討に伴う施工面積の縮小
 ・堤体法面積約11千m²縮小
 ・天端広場面積約15千m²縮小

7. その他委員会での縮減効果

- ・仮排水トンネル延長110m縮小
- ・本体掘削ズリ等の有効利用を図り、仮締切はCSG工法を採用